

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第45号(2009年12月24日)「中国市場動向2009年11月」



内需拡大政策が奏功

世界経済の急激な悪化とともに、中国政府は投資の過熱や資産価格の高騰を沈静化させるために行った金融引き締めから一転して、成長に向けた施策を相次いで打ち出しました。その影響を受けて景気の減速に歯止めがかかり、中国経済は回復に向かいつつあります。

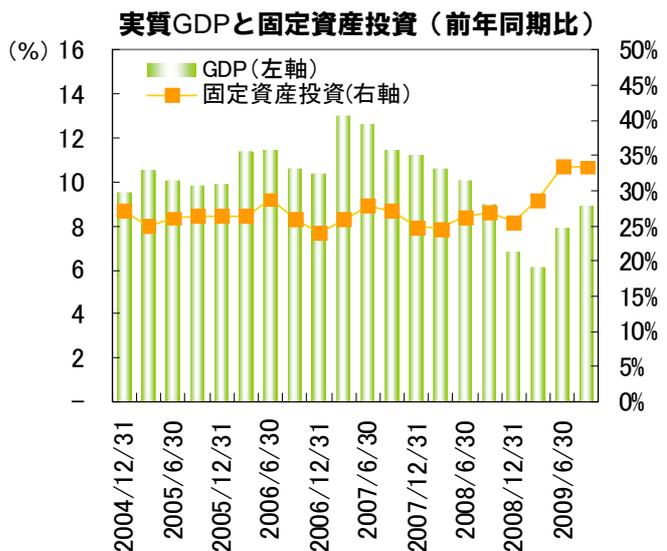
7~9月実質GDPは前年同期比で8.9%。回復の牽引役は内需、とりわけ投資です。同期間の固定資産投資は、33.4%上昇し、昨年打ち出した4兆元規模の内需振興策によるインフラ整備などの案件が順調に執行され、固定資産投資全体を押し上げています。

輸出減少の影響は軽微

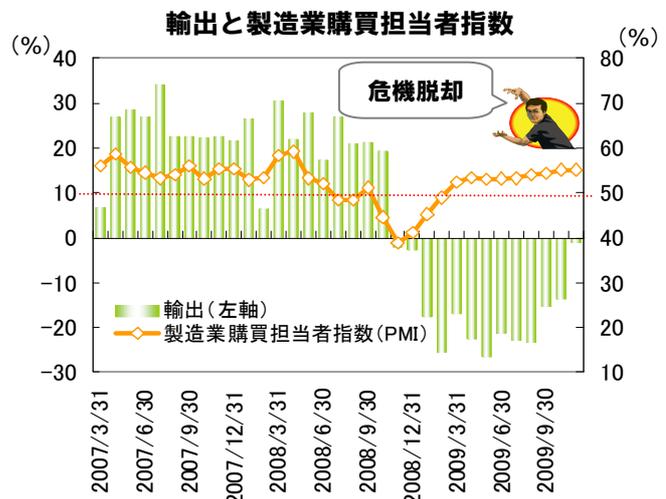
内需とは対比的に、輸出の不振からは未だ抜け出せていません。11月の輸出(前年同月比)減少は-1.2%と軽微にとどまったものの、13ヶ月連続で前年同月を下回っています。

また輸出の減少に伴い、製造業購買担当者指数(PMI)の回復は一時的に鈍化したものの、2009年3月以来、回復の目安である50を上回り続けています。

輸出の減少に伴う景気減速の懸念は薄らいできていますと判断できます。



出所：国家統計局、2009年11月末現在



出所：国家統計局、2009年11月末現在



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



『しまじろう』中国で拡大

日本国内大手の通信教育事業でおなじみの虎のキャラクター“しまじろう”が中国で大人気です。人口の多さ、国民性、一人っ子政策などの影響から、中国は子供への教育熱が高く、教育に対する投資意欲がとても高い国のようです。

中国では、初等教育以上は充実した教育システムが整備されていますが、乳幼児向けの教育システムやコンテンツは整備されていないため、乳幼児期の生活習慣の習得(トイレの仕方や手洗いの仕方)などのコンテンツで構成されたシステムが人気を集めています。

子育てに対する意欲が高い中国人の間で急速に支持を高め、料金設定も日本とほぼ同等の月当たり1,400円程度と廉価ではないながら会員数は急速に拡大しているようです。

現状のターゲット顧客は沿岸部の比較的裕福な層が中心ですが、中長期的に中国の成長・内需拡大等を背景にユーザー層の裾野の拡大が期待されます。また年間1,700万人の新生児が誕生する国でもあり市場拡大のポテンシャルは非常に大きいと思われます。

2010年は寅年ということもあり、しまじろうのキャラクターでプロモーションをかけるようです。

《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



出所: FACTSET

(編集後記) 中国経済は中長期的に成長トレンドにあると思われますが、足許はインフレ対策による引締めなど金融市場の波乱も懸念されます。しかしながら「虎穴に入らずんば虎子を得ず」。日本企業もリスクを取って来るべき成長を捉えるべく「虎視眈々」とビジネスチャンスを狙っているようです。

(見にいっチャイナ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなから補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。